



国際シンポジウムの報告／第9回リーダーシップ理論勉強会の報告

科学分野における女性のリーダーシップに関する国際シンポジウムを開催しました(2017.2.20)

お茶の水女子大学グローバルリーダーシップ研究所 アカデミック・アシスタント 大持 ほのか

2017年2月20日(月)に、お茶の水女子大学グローバルリーダーシップ研究所カレン・シャイア特別招聘教授が企画した国際シンポジウム“科学における女性のリーダーシップとは—アジアと欧州の経験から Improving Gender Balance of Participation in Science: European and Asian Experiences”を開催しました。当日は、約130名の方にご参加いただきました。

本シンポジウムでは、国内外から3名のゲストをお呼びし、プレゼンテーションとディスカッションを通じて、科学分野における女性人材の育成とリーダーシップ向上に関する研究や政策、活動等について国際的な観点から議論していただきました。

アリソン・ウッドワード氏(ベルギー ブリュッセル自由大学教授、政治学者。専門はヨーロッパにおける政治・経済・科学のクォータ制(*1))からは、ヨーロッパでの対策や現状について述べられた上で、科学分野におけるジェンダー・バランスの必要性についてお話しいただきました。STEM領域(*2)における女性科学者がなかなか増えない背景の一つとして、周囲の人や環境によって構築されたジェンダー・バイアスがあることを指摘されました。その上で、フィンランドにおけるクォータを事例に挙げられ、この制度が女性人材登用において有効であることを強調されました。そして、ジェンダーについて考えることにより、今後の科学及び社会がより良くなる可能性があるとして主張されました。



ディスカッションの様子
(左からウッドワード氏、チョ氏、安西氏、シャイア氏)

チョ・ソンナム氏(韓国 梨花女子大学校教授・梨花リーダーシップ開発院所長、社会学者)からは、**梨花女子大学校リーダーシップ開発院**でのSTEM分野におけるリーダー育成のための活動についてご紹介いただきました。梨花女子大学校で実際に行なっているプログラムを事例に、今後の新たなリーダーシップとして**シェアリング&ケアリング・リーダーシップ**というあり方を提示しました。グローバルな時代において、お互いを助け合うコミュニティを形成することが、女性のリーダーシップの一つのビジョンであると主張されました。

安西祐一郎氏(日本学術振興会理事長、前慶應義塾長)からは、日本のSTEM分野における女性参加の現状と、その解決策についてお話しいただきました。女性のキャリア形成とSTEM分野への参加は、①個人・家族・組織的、②社会的・文化的、③国・地域的、という三側面から成り立っていることを指摘された上で、女性のSTEM分野への参入における特定の問題と基本的な問題について述べられました。それらの問題を踏まえて、**教育システムのフレキシブル化**などの解決策を打ち出していただきました。

その後、登壇者全員で今後の課題と展望について議論しました。そして、質疑応答では参加者の方から多くの質問をいただき、シンポジウムは大盛況のうちに無事に終了いたしました。



会場全体の様子

(*1) 割当制(quota): 一定数を女性に割り当てること。

(*2) STEM=科学(Science)、技術(Technology)、工学(Engineering)、数学(Mathematics)を指す。

お茶の水女子大学グローバルリーダーシップ研究所 特任講師 小松 翠

グローバルリーダーシップ研究所では、先進的なリーダーシップ教育や研究を行なう海外大学との連携を目指し、海外調査を行なっています。その第2回海外調査として、2016年11月3日、宮尾正樹教授(本研究所所員)と小松特任講師の2名で国立台湾大学 管理学院(College of Management) 高階管理教育発展センター-SEED (Service for Executive Education Development)を訪問しました。

国立台湾大学管理学院は1987年に設立されました。学生数は3,600名ほどで、SEEDに加え、Executive MBA (EMBA)、Global MBA (GMBA)、情報管理学部・大学院、国際企業学部・大学院、財務金融学部・大学院、財務管理学部・大学院、工商管理学部・商学大学院の合計8つの学部・大学院、センターで構成されており(図①)、それぞれの部署で先駆的な人材教育を行なっています。例えば、EMBA (Executive MBA)は、台湾で最初に開設されたエグゼクティブ向けのMBAで、実務経験を持つ専門家を対象に、大学院レベルのビジネス学位が取得できるプログラムが提供されています。

今回訪問したSEEDでは、**上級管理職者を対象としたプログラム**が提供されており、各プログラムにおいて、**リーダーシップとマネジメントに関する教育**が行なわれています。現在、特に重点が置かれているプログラムの一つに**Global Executive Program (GEP)**があります。これは、台湾大学のパートナー校である**中国**の北京大学 光華管理学院、**アメリカ**のペンシルバニア大学 ウォートン校、**イギリス**のオックスフォード大学 サイド・ビジネス・スクール、台湾大学SEEDの**4か国で講義**を行なうプログラムです。受講生数は20名～30名ほどで、パートナー企業の協力のもと、各大学で約1週間ずつ世界トップレベルの専門家による講

義が行なわれています。4か国の講義をすべて受講すると、**コースの証明書「グローバル企業家(全球企業家)」**を取得することができます。

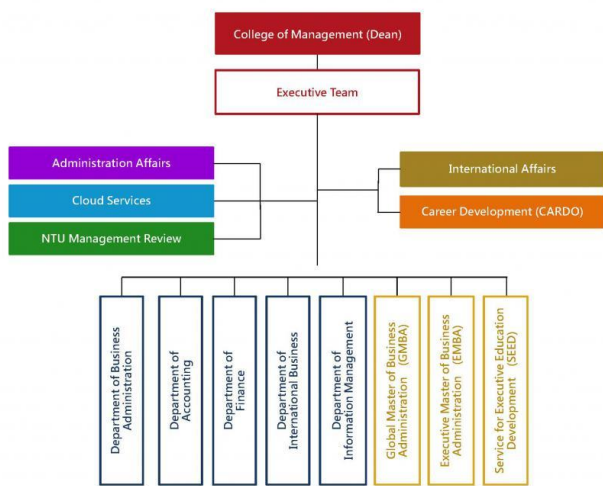
このプログラムの特色は、主に3点あります。第一に、国内外のエリート同士の**ネットワーク構築の場**を設けていることです。例えば、台湾大学では**ラウンジ**が設けられており、講義の合間もくつろいだ雰囲気を受講生同士が交流できる工夫がされています(写真①)。

第二に、英語で行なわれる講義は同時通訳が入るため、**すべてのコースを中国語で学ぶことができます**。プログラムの受講生は全員、台湾・中国出身の方や台湾・中国にルーツを持つ中国系移民の方なので、言語上の障壁を感じることなく受講することが出来ます。

第三に、講義では**経営学の知識のみではなく、各国の経済・市場の状況や経済発展の歴史**など幅広い内容が取り扱われています。例えば、台湾大学では、事業・企業発展のための計画やリーダーシップ人材の育成、企業ブランドの活性化、優良企業の競争力と業績管理などに関する講義が行なわれています。

また、SEEDでは**リーダーシップ教育についても特色のある教育**が行なわれています。今回の訪問で面会した台湾大学Miriam Garvi助教授は、従来の画一的なリーダー像を追求するのではなく、自分らしいリーダー像を模索する**オーセンティック・リーダーシップ (Authentic Leadership)**を専門の一つとし、講義を行なっています。

次年度の海外調査に向けて、実際にSEEDの講義を参観することや、受講生から話を聞くことなどを検討し、それに加えて、台湾大学の他の学院や、台湾の他大学におけるリーダーシップ教育の現状についても調査を進めたいと思います。



図① 管理学院の組織図



写真①
SEEDのラウンジ



写真②
勉強会の様子
(附属図書館
キャリアカフェ)